

二級河川野呂川水系河川整備計画に関する  
住民アンケート結果と河川整備計画への反映

広 島 県

## 目 次

	頁
1. アンケート調査概要 .....	1
2. アンケート調査票 .....	3
3. アンケート調査結果(単純集計) .....	5
4. アンケート調査結果(クロス集計) .....	14
5. アンケート調査結果による河川整備計画への反映 .....	23

# 1. アンケート調査概要

## (1) 目的

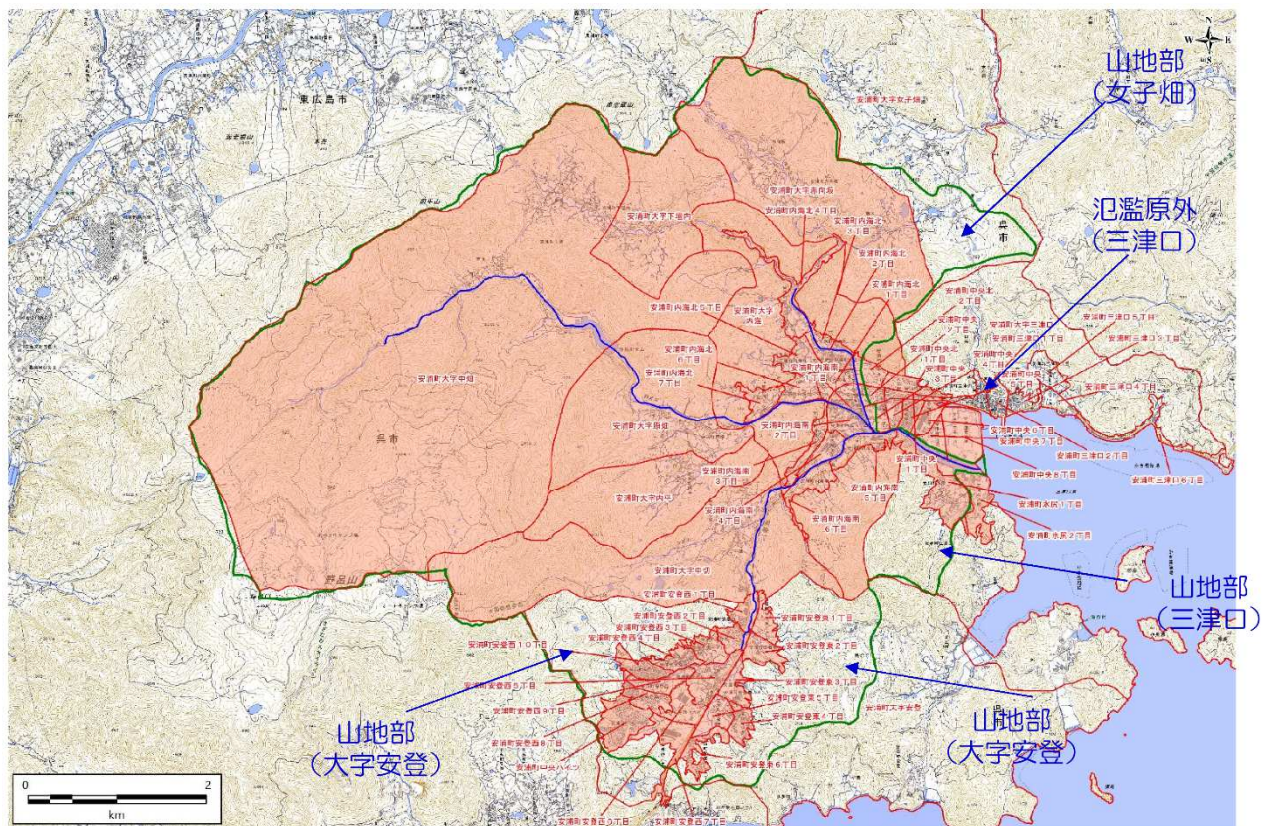
本アンケートは、流域内及び氾濫原に居住する住民意見を聴取することを目的としている。聴取した意見については集計を行い、結果を河川整備計画に反映させた。

集計方法は単純集計、クロス集計とした。クロス集計は、委員のご意見を踏まえ、身近な河川ごとの特性を把握するため実施した。

## (2) 調査対象者

アンケート調査は、紙媒体の調査とWEB調査を実施した。

紙媒体では、流域内及び氾濫原の各世帯を対象として日本郵便株式会社のサービスである「タウンプラス」を使用し、WEB調査では広島県HPに公開し回答を得るものとした。



アンケート配布範囲

※流域及び氾濫原に関わる対象の地域とした上で、呉市安浦町には山間部や流域外及び氾濫原とならない地区を除き、配布範囲を設定した。

### (3) 配布数

<紙媒体>

3,850部：日本郵便株式会社の各戸郵便受け設置数による集計

<WEB媒体>

無制限：広島県HPに紙媒体と同じ内容のアンケート（Excel形式）を掲載

### (4) 配布方法

紙媒体の配布は、次のとおりとした。

配布方法：アンケート用紙及び返信用封筒（長3）在中の封筒（角2）を郵便局に持ち込み、ポストに投函

### (5) アンケート調査期間

アンケート調査期間は、次のとおりとした。

<紙媒体>

・差出期間（配布期間）

令和2年10月26日（月）～令和2年10月30日（金）

・アンケート調査期間

令和2年10月30日（金）～令和2年11月13日（金）（14日間）

※令和2年12月15日現在で回答があったものはすべて対象とした。

<WEB媒体>

・アンケート調査期間

令和2年10月30日（金）～令和2年11月13日（金）（14日間）

### (6) アンケート回収率

アンケート回収率は以下のとおりである。

なお、自由意見に関しては、令和2年11月14日に開催された「野呂川・中畑川における平成30年7月豪雨からの取り組みと今後の河川改修に関する説明会」において、「意見シート」で提出された意見も含めて整理した。

アンケート回答率等一覧表

形式	配布数	回答数	自由意見数	回収率
紙	3,850	1,150	336	29.87%
WEB	無制限	5	3	—
地元説明会	—	—	13	—
合計	—	1,155	352	—

※令和2年12月15日消印のあるものを対象とした。

## 2. アンケート調査票

アンケート調査票は、以下に示すとおりである。

### ■河川整備計画とは・・・

#### 【河川整備計画について】

河川整備計画は河川法により、概ね今後30年間の野呂川水系の整備の内容と区間の計画を策定し、地域の皆様のご意見を踏まえて、お示しするものです。

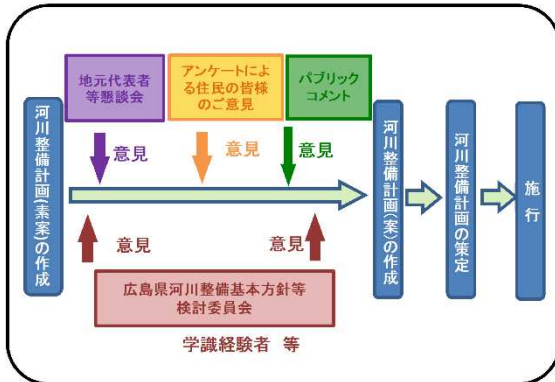


図 計画策定の流れ

＜連絡先＞  
 広島県 西部建設事務所呉支所  
 野呂川ダム管理事務所

担当者 おかたけ なかや  
 岡竹 中谷

〒737-2508 広島県呉市安浦町大字中畑641-11  
 TEL (0823) 84-3116 FAX (0823) 84-6850

## 広島県からのお願い

### 野呂川水系の川づくりについて みなさんのご意見をお聞かせください！

日頃より、広島県行政の推進にご協力いただき、御礼を申し上げます。

野呂川水系では、平成30年7月豪雨に伴う河川の破堤・溢水などにより浸水被害が発生していることから、広島県では「野呂川水系河川整備計画」の策定を予定しています。

河川整備計画策定に際し、地域の皆様が日頃から感じていることや川に求めるものなどを広く伺い、計画策定の参考とさせていただきますためにアンケート調査を行います。

より良い「川のありかた」の検討のため、ご協力をお願い致します。

別紙「アンケート調査用紙」にご記入の上、同封の返信用封筒に入れ、**令和2年11月13日(金)**までに返信してください(切手は不要です)。

※ このアンケートにより収集した情報は、河川整備計画の作成にのみ、使用いたします。

※ アンケート調査の結果は、「第25回河川整備基本方針等検討委員会」の中で報告するほか、広島県河川課のホームページに掲載させていただきます。

※ 本アンケートは下記のURLからも回答できます。

※ アンケート調査用紙は広島県西部建設事務所、野呂川ダム管理事務所でも入手可能です。

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/99/seibikeikaku-pabukome.html>  
 (「広島県 河川課 整備計画 アンケート」で検索)

## 野呂川の概要

### 河川と流域の概要

野呂川は、広島県南西部に位置し、その源を広島県呉市の野呂山(標高839m)に発し、上流部の野呂川ダム、中流部の呉市安浦町中心市街地を貫流して、下流部の河口付近で中畑川、中切川の支川と合流した後、三津口湾に注ぐ、幹川流路延長10.5km、流域面積43.2km<sup>2</sup>の二級河川です。

野呂川ダムは、野呂川水系野呂川の広島県呉市安浦町に、治水ダムとして建設したもので、昭和42年7月洪水を契機に昭和44年より野呂川ダム建設事業に着手し、昭和51年3月に完成しています。



### 浸水被害の発生状況

野呂川は、野呂川ダム完成以降、大規模な浸水被害を回避してきましたが、平成30年7月豪雨では、河道に流れ込んだ土砂や流木によって、中畑川の越水・破堤や野呂川の溢水が発生し、下流域では約60haの浸水被害が生じました。



### 野呂川水系の河道状況



# アンケート調査用紙

皆様の意見を川づくりに反映していきます。

- 今回のアンケート調査は、野呂川流域における河川整備計画を策定するにあたり、地域住民の皆様が日頃から感じていることや川に求めるものなどを広く伺い、河川整備計画を検討する際の参考とさせていただきます。
  - このアンケート調査の結果は、「第25回河川整備基本方針等検討委員会」の中で報告するほか、広島県河川課のホームページに掲載させていただきます。
  - 回答は選択肢の中から選び、本アンケート用紙に直接〇を付けてください。また、「その他」を選択した場合は、後ろの( )内に具体的にその内容をご記入ください。質問により〇を付ける数が異なりますので、ご注意ください。
- 質問は、質問1～質問16まで存在し、「おもて面」と「うら面」にございます。
- 調査項目
- ・身近な川に関する治水のこと、川の利用のこと、川に求めることなど
  - ・洪水に対する防災意識と被災経歴について

### ●基本属性

質問1 あなたの年齢を教えてください(1つ選択)

①20歳未満 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代 ⑦70歳以上

質問2 あなたのお住まいの地域を教えてください

呉市 安浦町 ( )

質問3 野呂川水系において「最も身近な川」はどれですか(1つ選択)

①野呂川  
②中津川  
③中切川  
④その他の川 (河川名: )  
⑤身近な川はない

} 質問4へ  
} 質問10へ

※以下の質問については、質問3で回答された川についてお答えください

質問4 あなたが現在お住まいの場所は、「身近な川」からどのくらいの距離ですか(1つ選択)

①川沿い ②徒歩5分以内 ③徒歩5分～10分 ④徒歩10分～20分 ⑤徒歩20分以上

質問5-1 あなたはいつから現在の場所にお住まいですか(1つ選択)

①平成31年以降 ②平成21年以降 ③平成10年以降 ④昭和50年以降  
⑤昭和40年以降 ⑥昭和40年以前

質問5-2 現在お住まいの場所で平成30年7月豪雨以外に水害を経験したことがありますか(1つ選択)

①ある ⇒「ある」場合は、いつの水害ですか( )  
②ない

質問6 「身近な川」を訪れるのはどの程度ですか(1つ選択)

①ほぼ毎日 ②週に2～3回 ③週に1回程度 ④月に2～3回  
⑤年に数回 ⑥行ったことがない

質問7 「身近な川」を訪れる主な目的は何ですか(複数選択可)

①散歩による通過 ②自転車・車による通過 ③散歩・ジョギング ④水遊び  
⑤釣りの ⑥キャンプ・ピクニック ⑦スポーツ ⑧地域の催し  
⑨草刈り ⑩その他( ) ⑪とくにない

### ●川に対して感じていること

質問8 現在、「身近な川」に対してどのように感じていますか(複数選択可)

①水害が起こらず、安心できる川である ②色々な動植物が育成・生息している、自然豊かな川である  
③水辺で休息・散策ができ、遊べる川である ④きれいな水が流れている川である  
⑤農業などに利用されている川である ⑥よく維持管理された川である  
⑦今まで水害被害を受けていない川である  
⑧その他( )  
⑨①～⑧について具体的な理由があればお書きください( )

質問9 今後、川に対して特に何を期待しますか(複数選択可)

①水害が起こらず、安心できる川にしてほしい ②色々な動植物が生育・生息する川にしてほしい  
③水辺で休息・散策ができ、遊べる川にしてほしい ④きれいな水が流れている川にしてほしい  
⑤手を加えない自然のままの川にしてほしい ⑥農業などに利用できる川にしてほしい  
⑦維持管理が行き届いた川にしてほしい  
⑧洪水が起きない川にしてほしい  
⑨現状のままで満足している  
⑩その他( )  
⑪①～⑩について具体的な理由があればお書きください( )

「うら面」へお進みください

※以下の質問については、質問3で回答された川についてお答えください

質問10 平常時における川との関わり方に関する考えに、最も近いものを選んでください(1つ選択)

①地域住民が積極的にボランティア活動を行い、行政に代わり主体的に地域の川の維持管理を行う  
②地域住民と行政が連携して、役割を決めながら維持管理を行う  
③基本的には行政主導で、希望する地域住民に声かけや支援を行いながら維持管理を行う  
④行政が全て維持管理を行う (わからない)  
⑤その他( )

洪水に対する防災意識 (平成30年7月豪雨)

質問11 平成30年7月豪雨の際、あなたは避難しましたか。(1つ選択)

「①はい」を選択された方は、避難先をご記入ください。

①はい (避難先: ) ⇒ 質問12へ  
②いいえ ⇒ 質問13へ  
③わからない ⇒ 質問14へ

質問12 質問11で「①はい」(避難した)理由をお聞かせください(複数選択可)

①過去に洪水被害に遭っているから ②テレビ・ラジオの報道を聞いたから  
③インターネット(パソコン・携帯電話・スマートフォン)で情報を見たから  
④呉市からの避難情報を聞いたから ⑤野呂川の洪水想定区域図を見ていたから  
⑥親類・近隣住民等に言われたから ⑦なんとなく ⑧その他( )

質問13 質問11で「②いいえ」(避難しなかった)理由をお聞かせください(複数選択可)

①過去に洪水被害に遭っていないから ②安全だと思ったから  
③避難しようとした際には、既に避難できない状況になっていたから  
④テレビ・ラジオ、インターネット、呉市からの避難情報を知らなかったから  
⑤避難場所がわからないから ⑥野呂川の洪水想定区域図を見たことがなかったから  
⑦なんとなく ⑧その他( )

質問14 あなたが防災情報の収集を行う際に、最も利用するものは何ですか(1つ選択)

①テレビ・ラジオ ②インターネット(パソコン・携帯電話・スマートフォン)  
③市町の防災無線・広報車 ④関係の人から聞く  
⑤その他( )

質問15 防災に関する知識を、あなたはどのように入手していますか(複数選択可)

①テレビ・ラジオ ②新聞・雑誌 ③学校での教育 ④インターネット  
⑤自治体などのパンフレット ⑥自治体やNPOなどによる講演会 ⑦自治会など地域の集會  
⑧その他( )

### その他

質問16 その他、河川全般についてお気づきの点などありましたら、お聞かせください(自由記述)

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。  
誠に勝手ではございますが、アンケートの回答期間は以下のとおりとさせていただきます。

令和2年10月31日(土)～11月13日(金)(14日間)  
11月13日(金)までにポストに投函してください

※このアンケートについては、以下の広島県HP(WEB)でも回答可能です。  
URL: <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/99/seibikeikaku-pabukome.html>

※アンケートの回答は、同封の『返信用封筒』にてご返信ください。

### 問い合わせ先

【アンケート実施者】  
広島県西部建設事務所呉支所 野呂川ダム管理事務所 担当:岡竹, 中谷  
TEL: 0823-84-3116

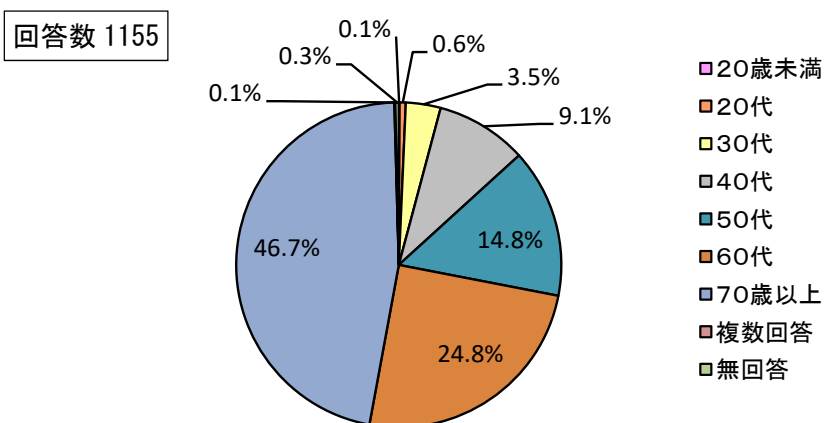
【アンケート委託業者】  
中電技術コンサルタント株式会社 河川本部 河川砂防部 担当:天野, 山本  
TEL: 082-256-3348

### 3. アンケート調査結果(単純集計)

#### 3.1 基本属性

##### 質問1. あなたの年齢を教えてください

年齢構成で最も多いのは「70歳以上」であり、続いて「60代」、「50代」の割合が高く、60歳以上の回答者が全体の約70%と高い割合を占める。



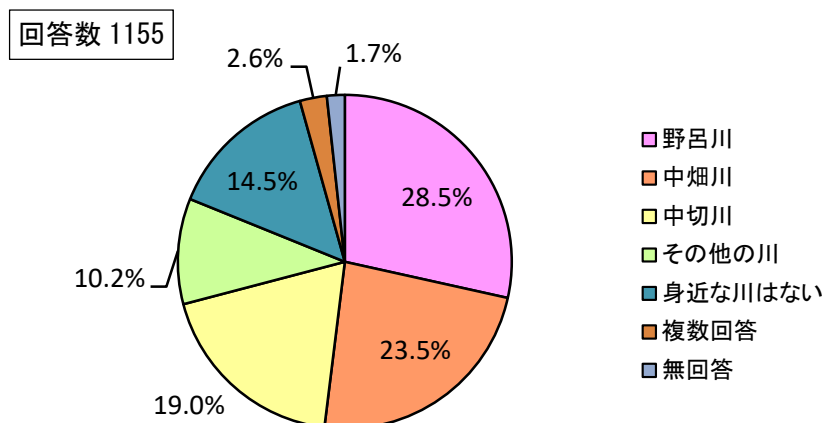
##### 質問2. あなたのお住まいの地域を教えてください

原則として、呉市安浦町に配布しており、無回答の方を除き、その他の地域を回答された方はいない。

##### 質問3. 野呂川水系において「最も身近な河川」はどれですか

身近に感じる河川としては、野呂川本川が約30%を占めている。次いで「中畑川」(約25%)、「中切川」(約20%)が多く、約70%を3河川が占めている。

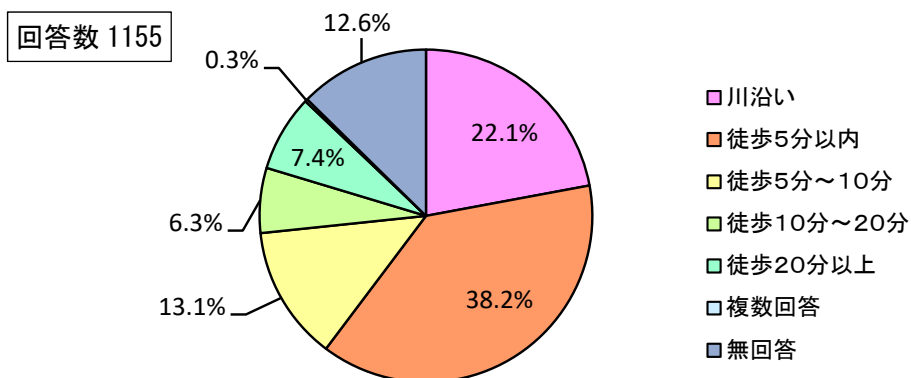
後述のクロス集計は、野呂川、中畑川、中切川、その他河川の4区分で実施する。



質問 4. あなたが現在お住いの場所は、「身近な川」からどのくらいの距離ですか

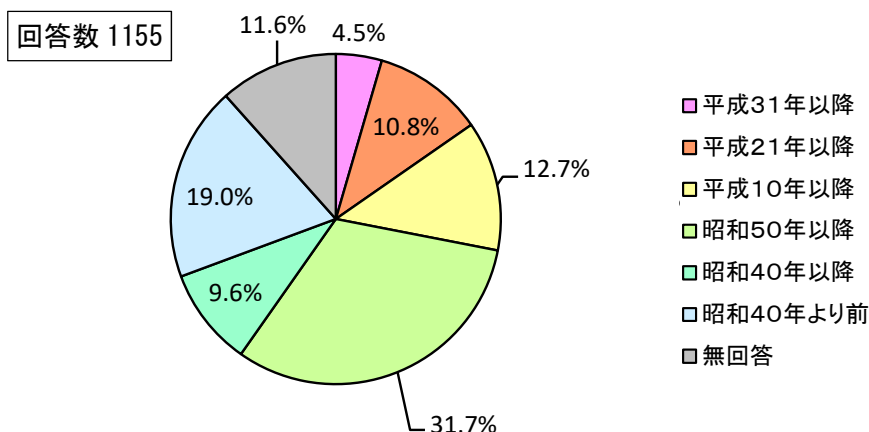
川から「徒歩 5 分以内」と回答した人が最も多く約 40%を占めている。次いで、「川沿い」の割合が高く、5 分以内の回答者が全体の約 60%と高い割合を占めている。

河川周辺にお住まいの方の回答が多いことがわかる。



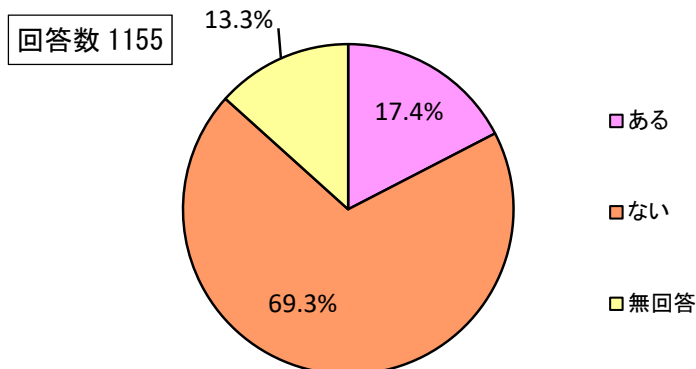
質問 5 - 1. あなたはいつから現在の場所にお住まいですか

「昭和 50 年以降」から住んでいると回答した人が最も多く約 30%を占め、野呂川ダム完成後からお住まいの方は、全体の約 60%を占めている。



質問 5 - 2 現在お住いの場所で平成 30 年 7 月豪雨以外に水害を経験したことがありますか

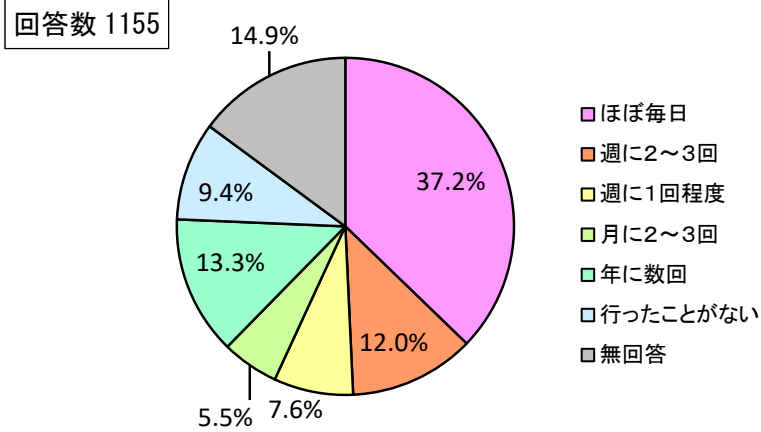
平成 30 年 7 月豪雨以外に水害を経験したことの無い方が約 70%であり、野呂川ダム完成後にほとんど水害が発生していないことがわかる。





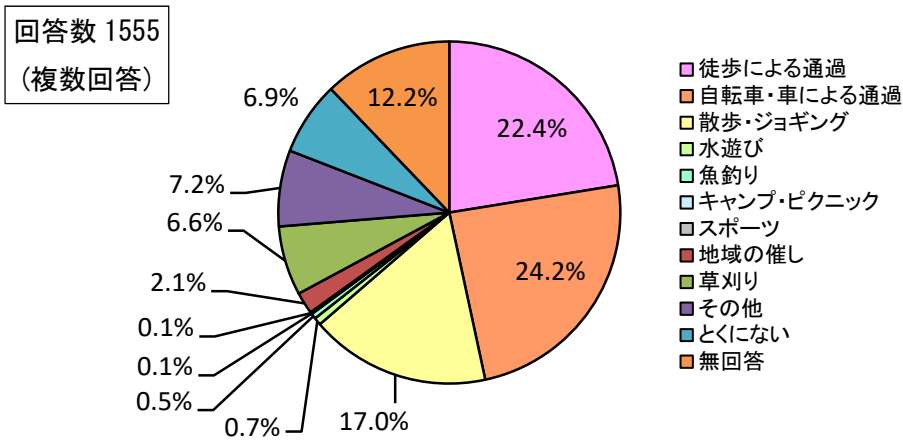
質問6. 「身近な川」に訪れるのはどの程度ですか

「身近な川」に訪れる頻度は、週に2~3回以上が約50%を占めている。一方で、年に数回以下が約20%程度であり、河川とつながりの深い地域であることがわかる。



質問7. 「身近な川」を訪れる主な目的は何ですか

「身近な川」を訪れる主な目的としては、徒歩や自転車・車による通過が約45%を占め、最も多い。次いで、「散歩・ジョギング」(約20%)が多い。

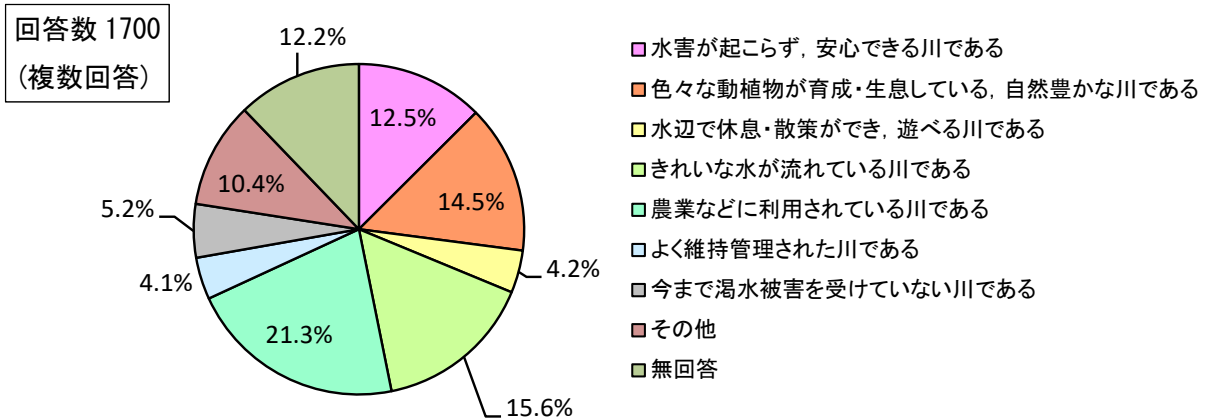


### 3.2 川に対して感じていること

#### 質問8. 現在、「身近な川」に対してどのように感じていますか

河川に対し感じていることとして、「水辺で休息・散策ができ、遊べる川」、「よく維持管理された川」と回答される方が約4%と選択肢の中では最も少ない。

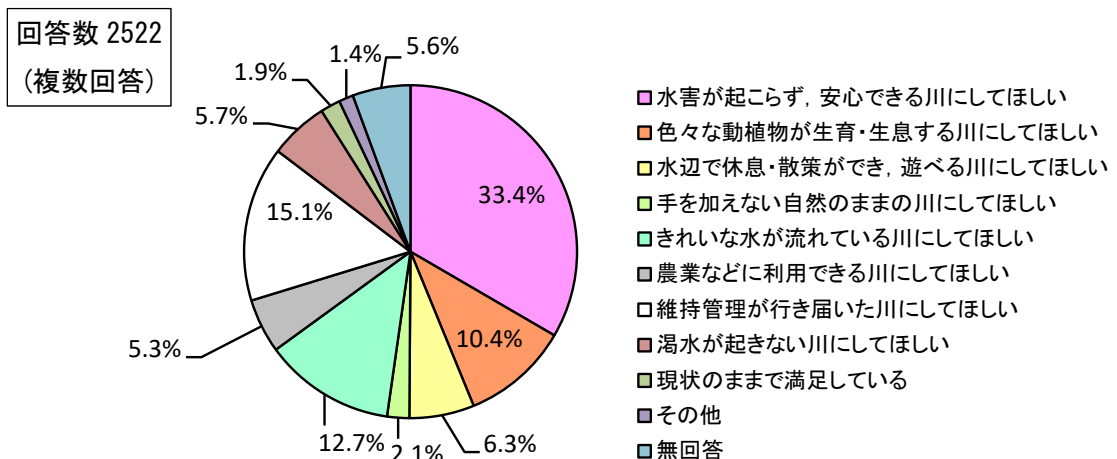
親水性や維持管理に課題があるとも推測されるが、「その他」の10%程度の方が「どのような印象」をお持ちなのかを分析する必要がある。⇒[クロス集計へ](#)



#### 質問9. 今後、川に対して特に何を期待しますか

今後、川に対して期待することとしては「水害が起こらず安心できる川にしてほしい」が約35%と最も多く、次いで「維持管理が行き届いた川にしてほしい」(約15%)となっている。

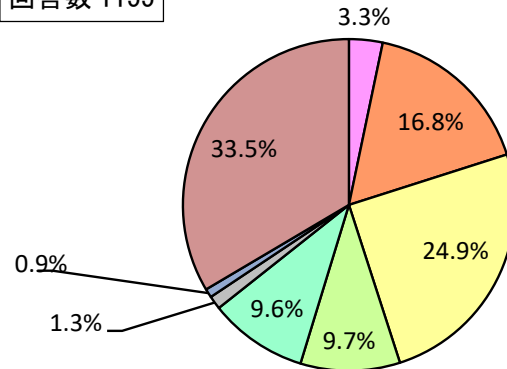
質問8から維持管理に関する要望が大きくなっていると推測されるが、平成30年7月豪雨への対応に対する期待が最も伺える。



質問 10. 平常時における川との関わり方に関する考えに、最も近いものを選んでください

平常時の関わりに関しては、「地域住民」が何らかの形で参画した「河川の維持管理」と回答されている方が、約 45%を占めている。

回答数 1155



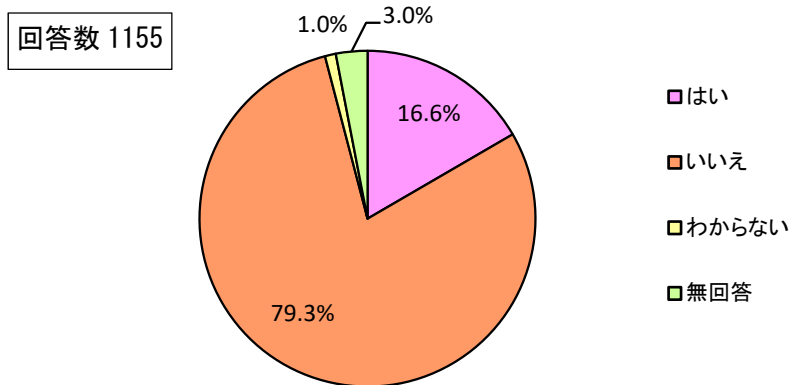
- 地域住民が積極的にボランティア活動を行い、行政に代わり主体的に地域の川の維持管理を行う
- 地域住民と行政が連携して、役割を決めながら維持管理を行う
- 基本的には行政主導で、希望する地域住民に声かけや支援を行いながら維持管理を行う
- 行政が全て維持管理を行う
- わからない
- その他
- 複数回答
- 無回答

### 3.3 洪水に対する防災意識について

質問 1 1. 平成 30 年 7 月豪雨の際、あなたは避難しましたか。

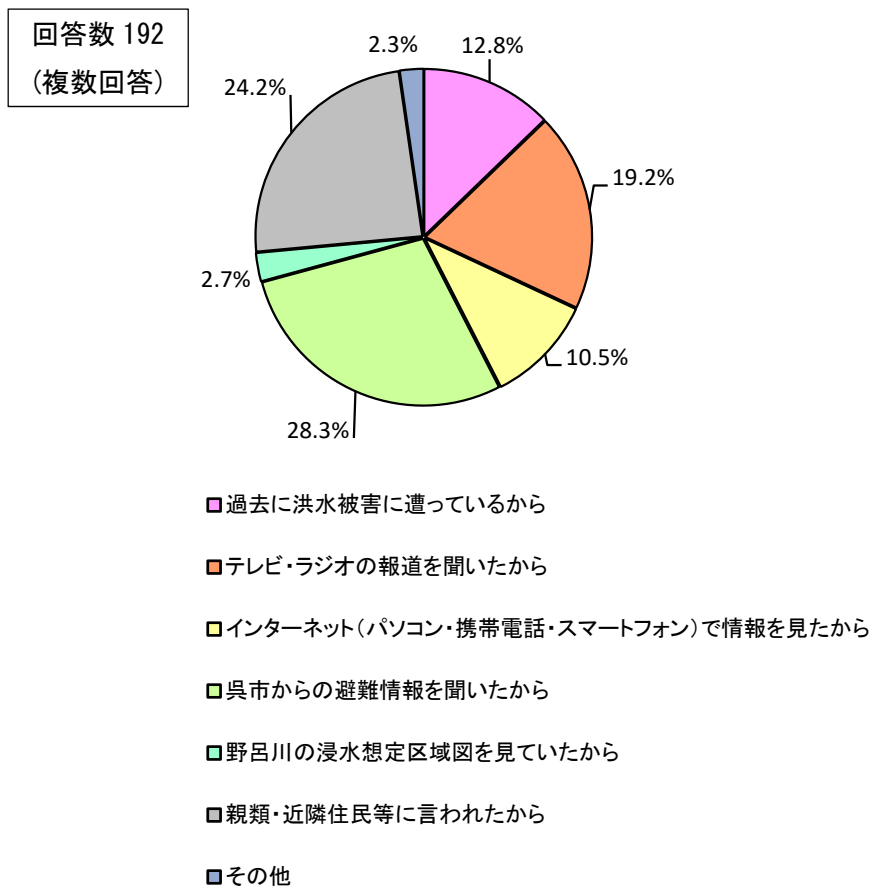
避難の有無は、「②いいえ」との回答が約 80%を占め、「①はい」と答えた人の割合(約 15%)を大きく上回っている。

平成 30 年 7 月豪雨は、甚大な被害が発生した洪水であり、避難行動のあり方について、河川管理者、自治体、地域住民が一体となった取り組みが必要である。



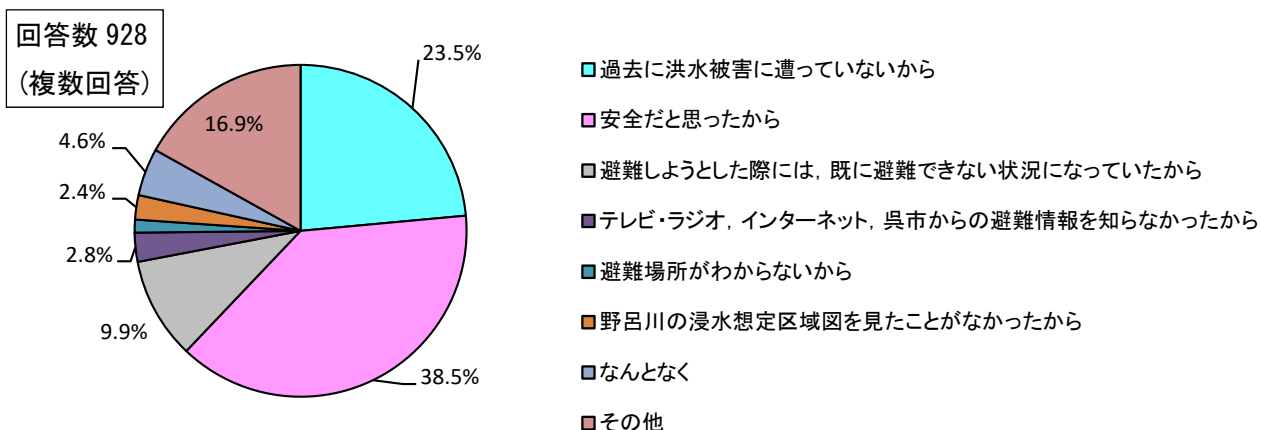
質問 1 2. 質問 1 1 で「①はい」を選択された理由をお聞かせください

避難された方の避難理由は「呉市からの避難情報」が約 30%を占めており、次いで、「親類・近隣住民等に言われたから」が多くなっている。



質問 1 3. 質問 1 1 で「②いいえ」(避難しなかった)理由をお聞かせください

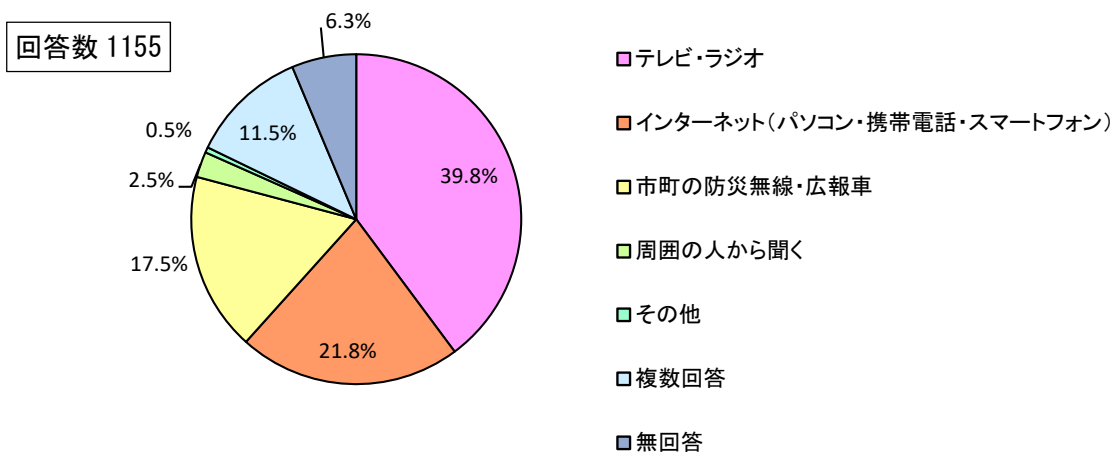
避難しなかった理由は「安全だと思ったから」が約 40%を占め最も多くなっている。次いで、「過去に洪水被害に遭っていないから」が約 25%を占めている。



質問 1 4. あなたが防災情報の収集を行う際に、最も利用するものは何ですか

防災情報の収集を行う際に、最も利用するものとしては「テレビ・ラジオ」(約 40%)、次いで、「インターネット」が約 20%を占めている。

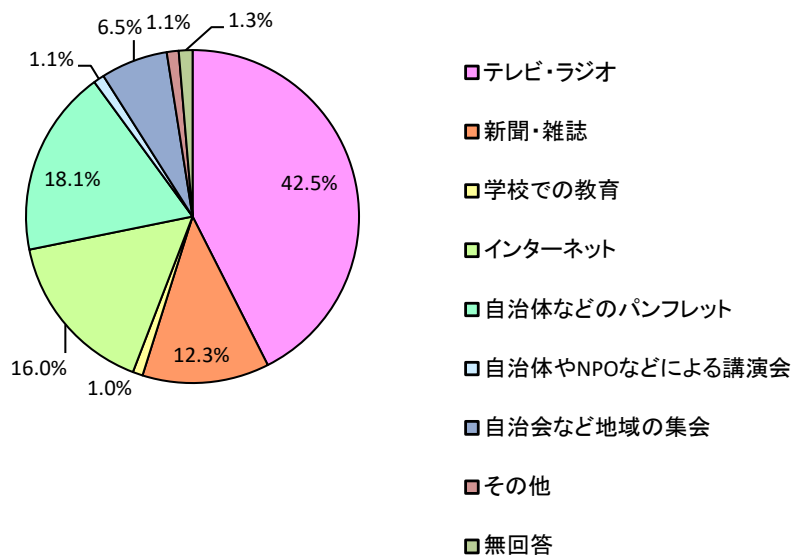
市町の防災無線や広報車を利用されて方が少ない傾向にある。



質問 15. 防災に関する知識を、あなたはどのように入手していますか

防災に関する知識の入手方法は、「テレビ・ラジオ」が最も多く、約 40%を占めている。次いで、「自治体などのパンフレット」、「インターネット」となっており、それぞれ約 20%となっている。

回答数 2182  
(複数回答)



### 3.4 その他（自由意見）

#### 質問16. その他，河川全般についてお気づきの点などありましたら，お聞かせください

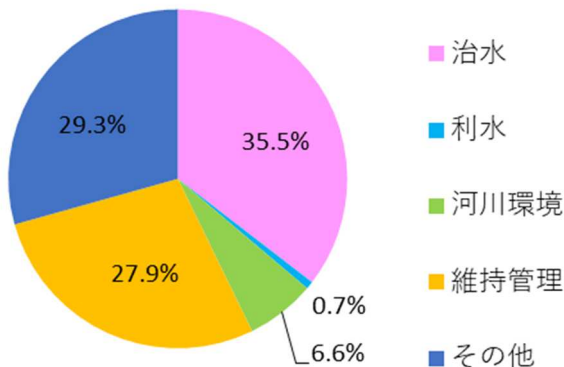
アンケートの回答者数1,155に対し，339名の方々にご回答いただいている。

また，地元説明会において，13名の方々に「意見シート」を提出いただいております，合計352名の方々から自由意見をいただいた。

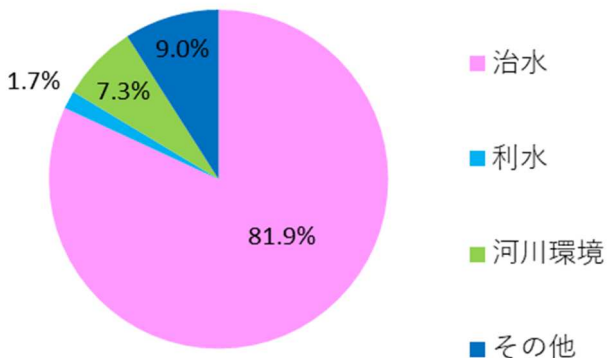
自由意見を踏まえ，河川整備計画の大項目である「治水」，「利水」，「河川環境」，「維持管理」に分類し，該当しないご意見・ご要望を「その他」とした。

#### 【自由意見の特徴】

- 自由意見に関しては，治水，維持管理，その他が約30%となっている。
- よって，維持管理，その他を治水，利水，河川環境に分類した結果，約80%が治水に関するご意見・ご要望となっており，平成30年7月豪雨への対応等が挙げられている。
- 自由意見をさらに中分類，小分類と分割した場合，合計409のご意見，ご要望をいただいております，代表的なご意見を踏まえた「河川整備計画」への反映が必要である。



自由意見の分類割合



【参考】治水・利水・河川環境の分類

大分類	中分類	小分類	人数	【参考】備考
治水	全般	安全安心な川づくり	48	治水
		整備方法	28	
		流域治水	3	
	ダム	事前放流	13	
		操作方法	9	
	河道	土砂・流木対策	13	
		高潮対策	1	
	ソフト対策	情報提供	17	
		避難行動	7	
		防災対策	3	
		住民参画	2	
		ハザードマップ	1	
		農業用水確保	2	
利水	ダム	河川環境の保全	1	利水
		河川環境の保全	1	
河川環境	全般	整備と保全	5	河川環境
		動植物	11	
		河川利用	10	
		水質	1	
維持管理	治水	全般	22	治水
		河床堆積・樹木	50	
		治山・砂防	14	
		ダム	8	
		護岸	7	
	利水	取水堰	3	利水
	河川環境	ゴミ対策	2	
	河川利用	河川利用	1	
	その他	河川周辺	7	その他
	その他	全般	災害復旧	
災害要因			16	
まちづくり			11	
行政への意見			10	
地元説明会			4	
環境・防災教育			3	
アンケート			2	
治水	治水	小河川	17	治水
		ため池	5	
		内水(水路・ポンプ場)	4	
		橋梁の新設	1	
		用水路	1	
利水	用水路	1	利水	
合計			409	

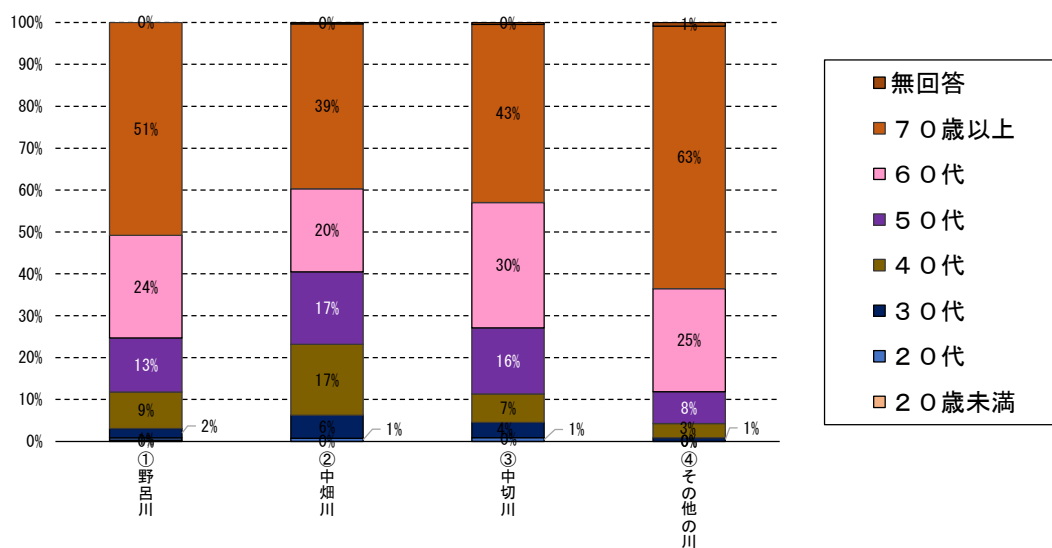
## 4. アンケート調査結果(クロス集計)

身近な河川(質問3)で野呂川, 中畑川, 中切川, その他河川の4河川と回答された方の設問ごとの意見をクロス集計し, 河川毎の特性について, 分析を行った。(質問2, 質問16は除く)

### 4.1 基本属性

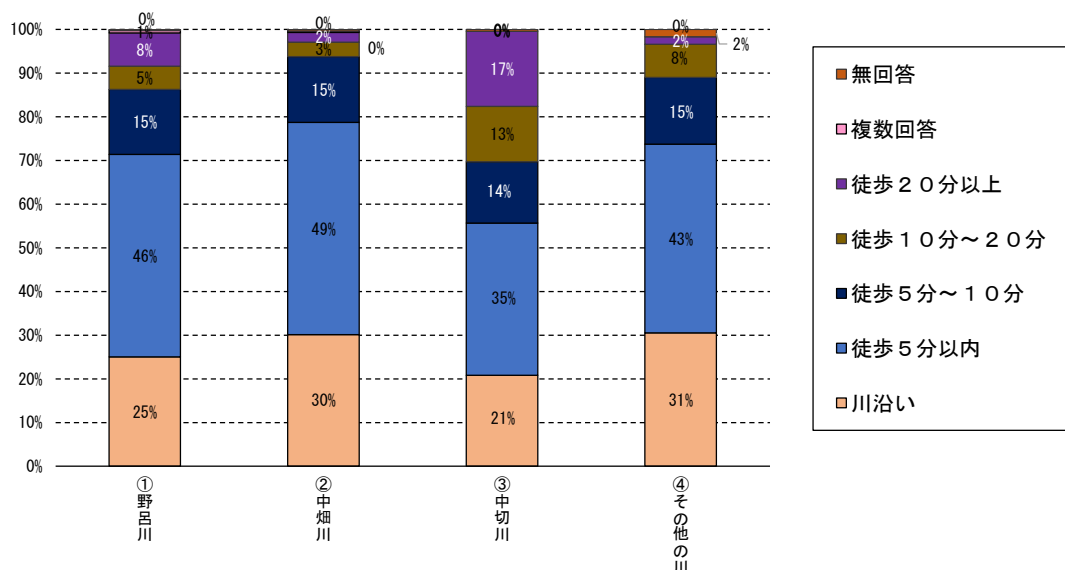
#### 質問1. あなたの年齢を教えてください。

中畑川は, 安浦市街地を流下しているが, 他河川と比較すると50代以下の方が約40%と多くっており, 特に40代の割合が他河川よりも多くなっている。



#### 質問4. あなたが現在お住いの場所は, 「身近な川」からどのくらいの距離ですか

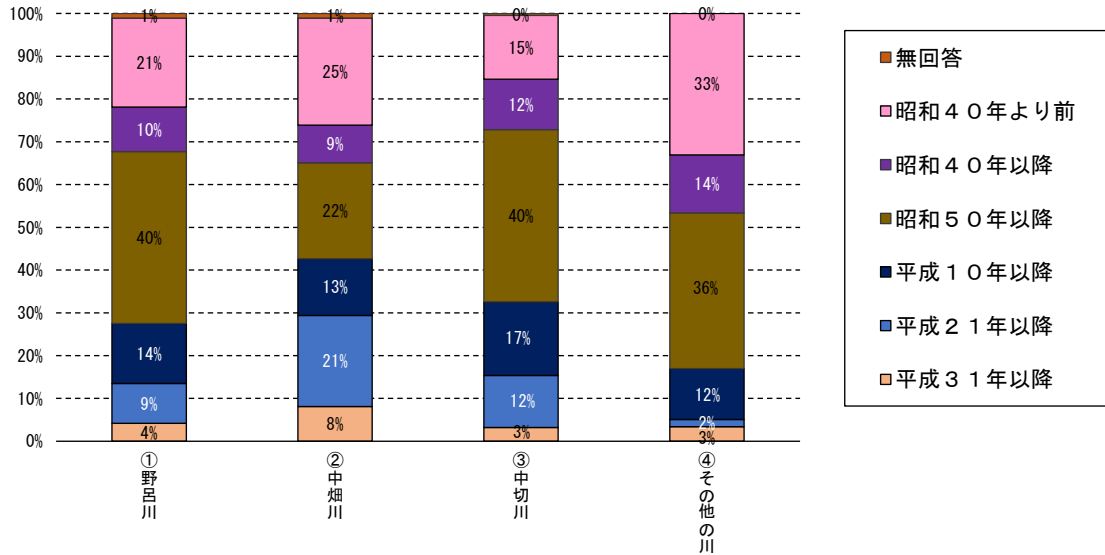
河川に近い方(徒歩5分以内)に着目すると, 野呂川(約70%), 中畑川(約80%)の割合が高く, 中切川は60%未満となっている。





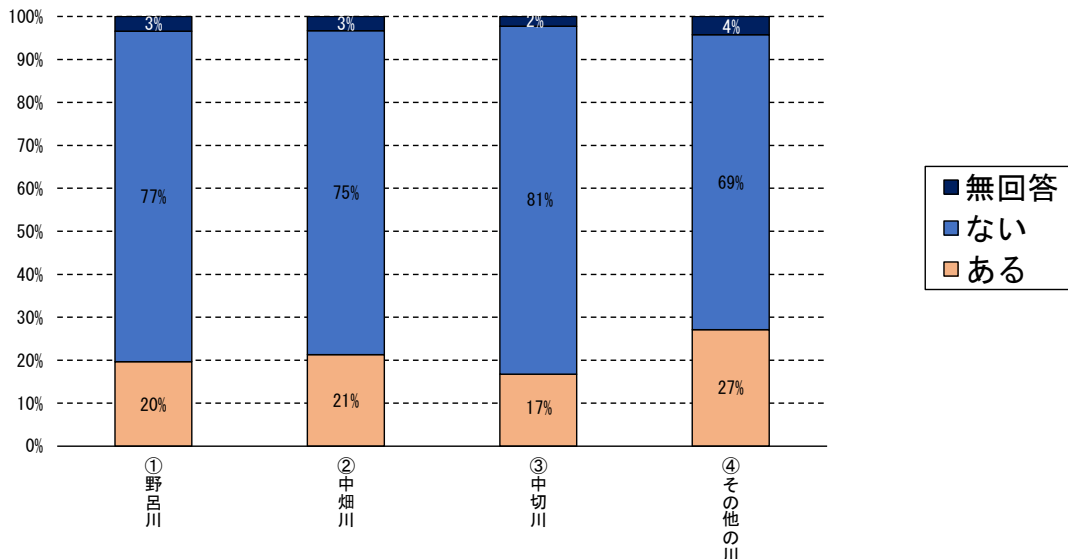
質問5-1. あなたはいつから現在の場所にお住まいですか

中畑川に関しては、平成10年以降からお住まいの方が約40%を占めており、質問1の年齢層と傾向が類似している。（安浦市街地の新興住宅街に位置すると考えられる）



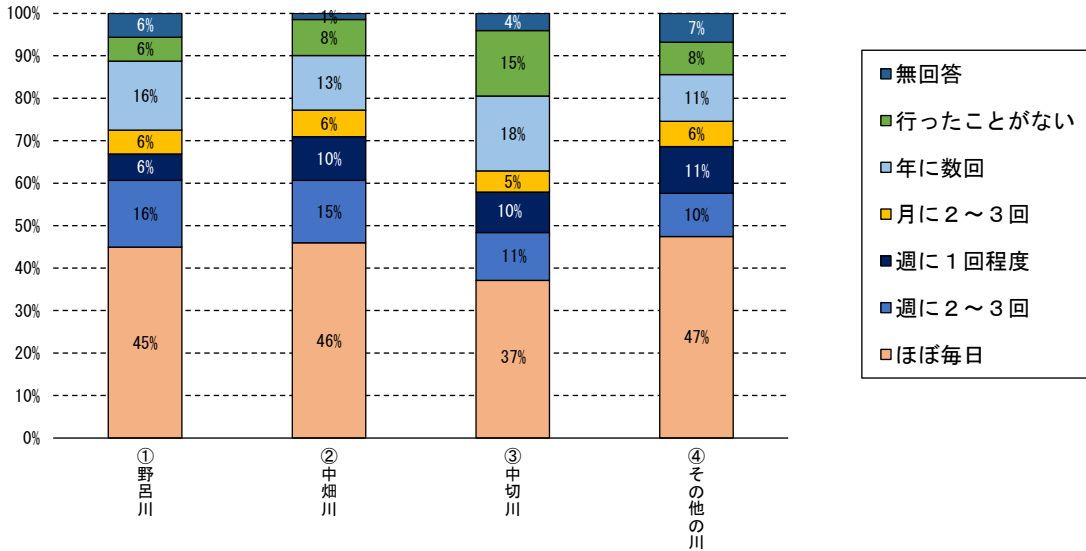
質問5-2 現在お住まいの場所で平成30年7月豪雨以外に水害を経験したことがありますか

平成30年7月豪雨以外の水害経験について、河川毎に大きな特性はないが、中切川の水害経験が最も少なくなっている。



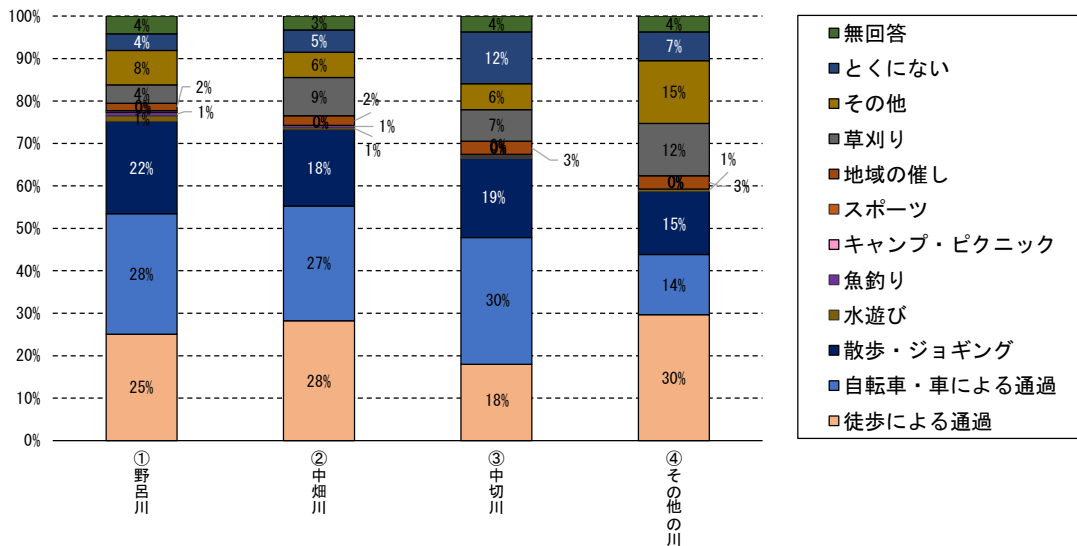
質問6. 「身近な川」に訪れるのはどの程度ですか

「身近な川」を訪れる程度について、河川からの距離と比例し、中畑川、野呂川、中切川の順序で、訪れる頻度が高くなっている。



質問7. 「身近な川」を訪れる主な目的は何ですか

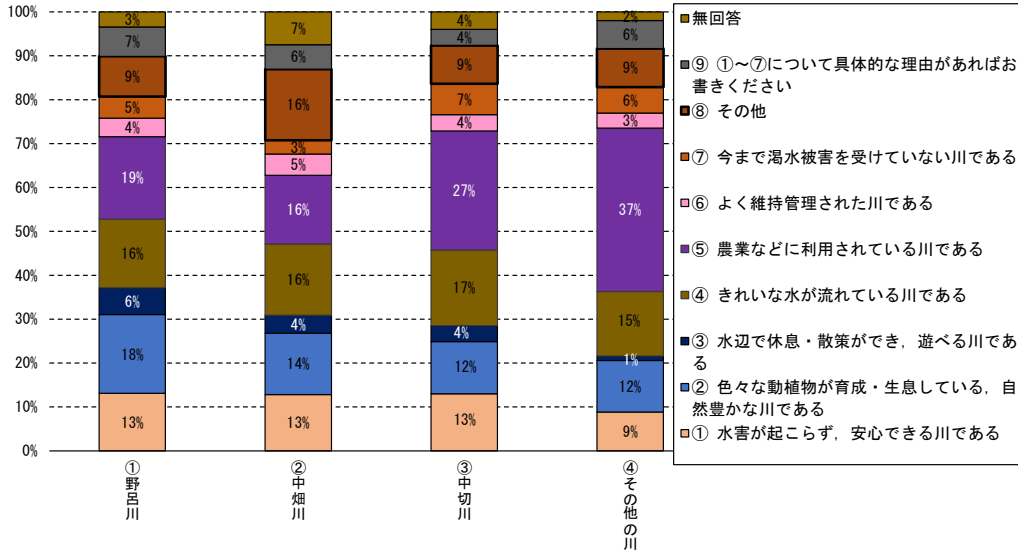
「身近な川」を訪れる主な目的について、河川毎に大きな特性はないが、河川からの距離に比例して、中切川の「徒歩による通過」が野呂川、中畑川と比較して少ない。



## 4.2 川に対して感じていること

### 質問8. 現在、「身近な川」に対してどのように感じていますか

中切川の特徴として、「農業などに利用されている川である」という回答が約30%多い。なお、単純集計と同様に、「維持管理」「親水性」の回答が少なくなっている。

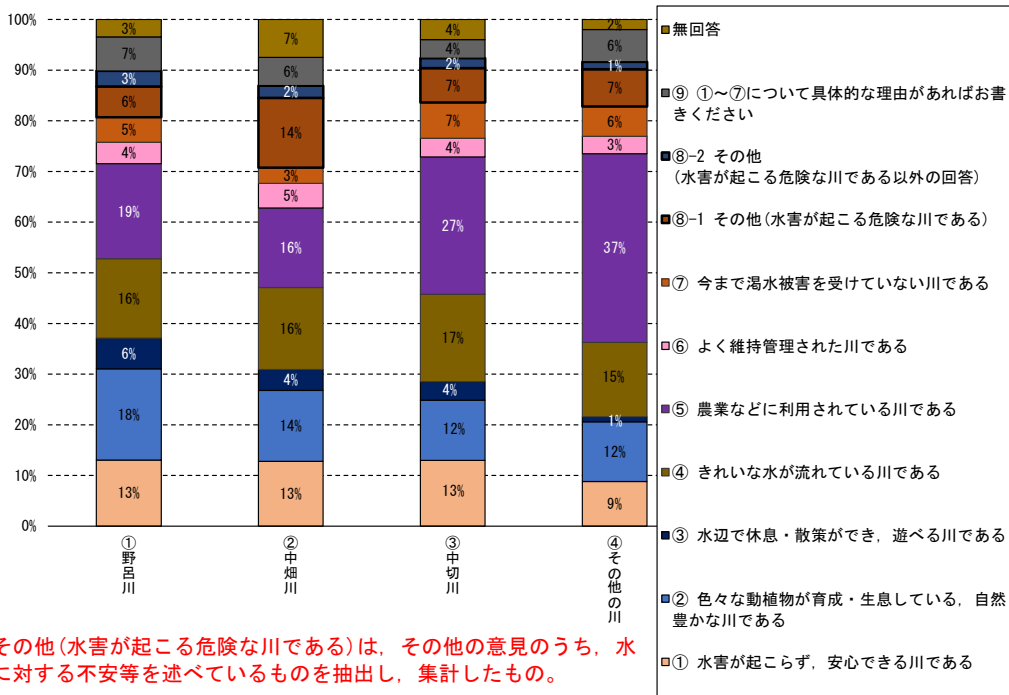


#### 【「⑧その他」について】

中畑川の特徴として、「その他」という回答が他河川の2倍近く(16%)と多くなっているため、具体的な記述事項を整理した結果、その他(水害が起こる危険な川)と記述された方が約80%を占めていることが明らかとなった。

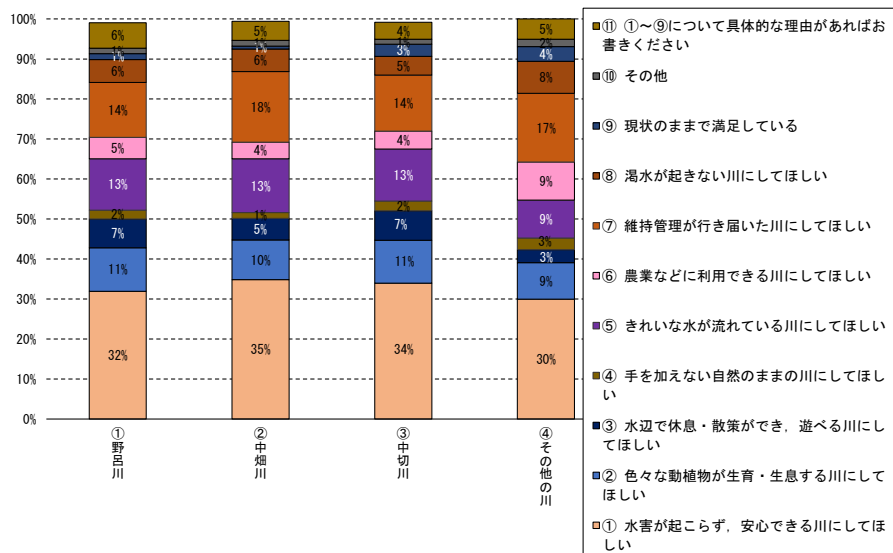
よって、その他を2つ(⑧-1, ⑧-2)に分類した結果、「危険な川」と回答されている方が、中畑川14%と野呂川, 中切川の2倍となっている。

これは、平成30年7月豪雨の印象としての回答であることが伺える。



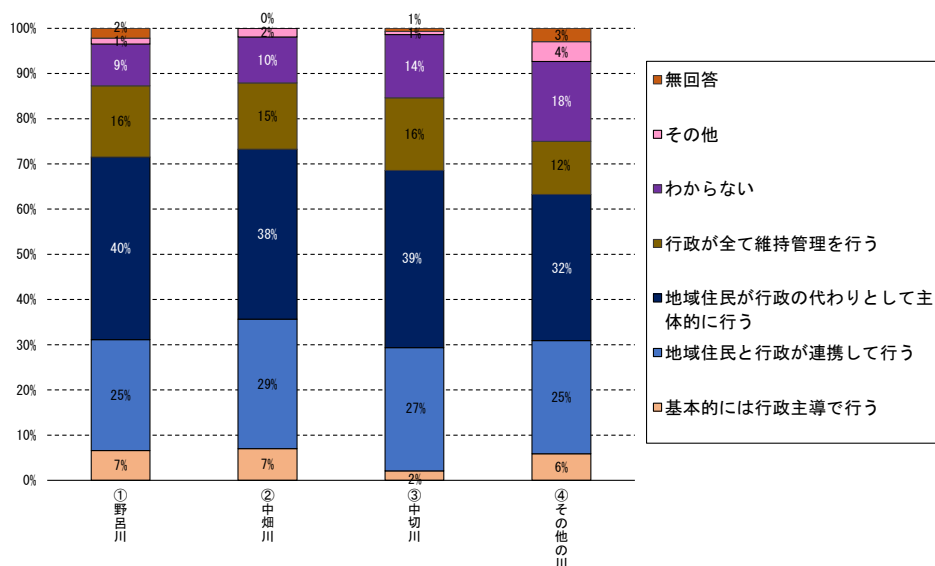
### 質問9. 今後、川に対して特に何を期待しますか

今後の川に対する期待については、どの河川も「水害への対応」「維持管理の徹底」が大きな割合を占めている。この結果は、後述する自由意見からも伺える結果である。



### 質問10. 平常時における川との関わり方に関する考えに、最も近いものを選んでください

平常時における川との関わりについては、河川毎に大きな特性はない。

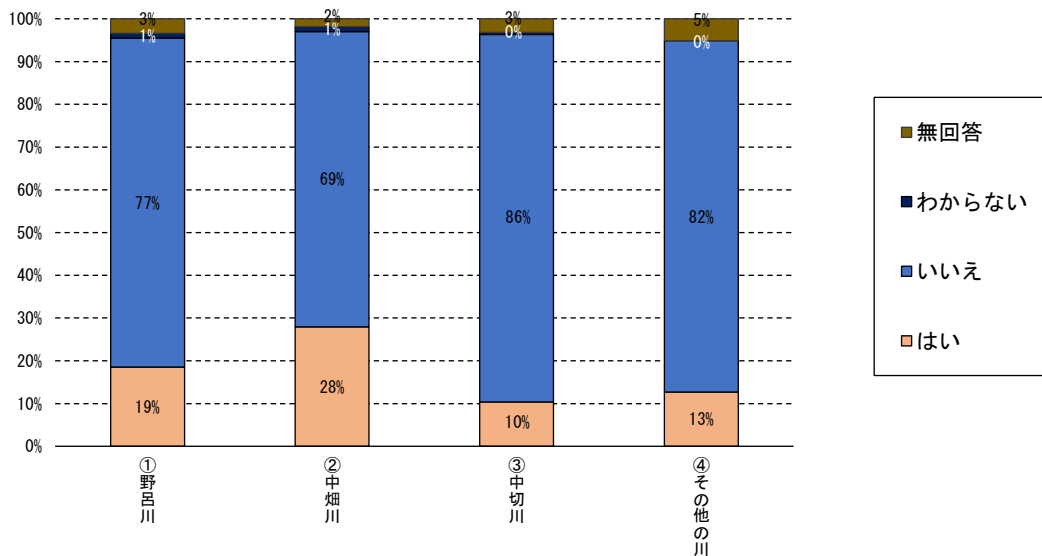


### 4.3 洪水に対する防災意識について

質問 1 1 平成 30 年 7 月豪雨の際、あなたは避難しましたか。

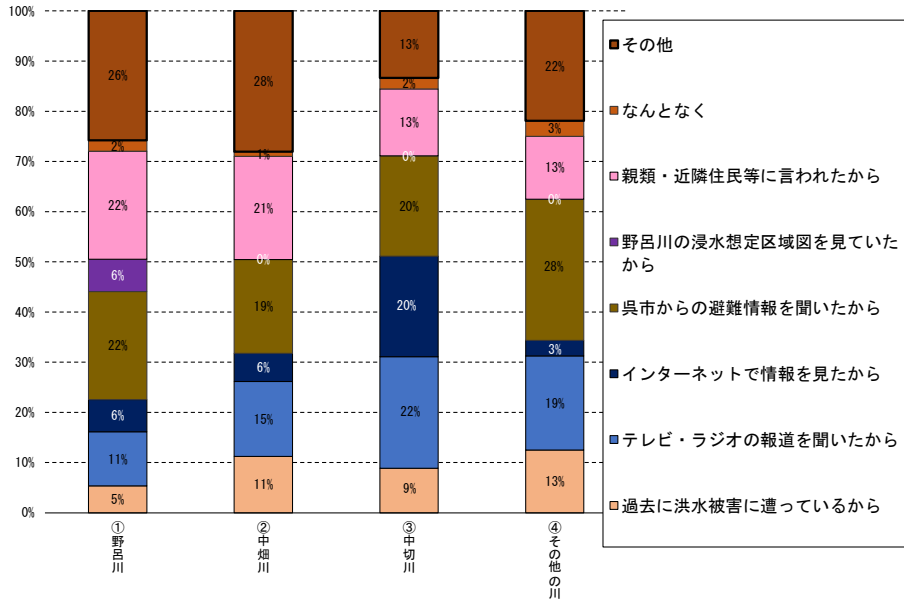
平成 30 年豪雨の際の避難の有無について、避難した方の割合が、全体の 20%に対し、中畑川、野呂川、中切川の順序となっている。

平成 30 年 7 月豪雨の被災状況と比例している結果であるが、単純集計でも述べたように避難した方の割合が少ない。



質問 1 2. 質問 1 1 で「①はい」を選択された理由をお聞かせください

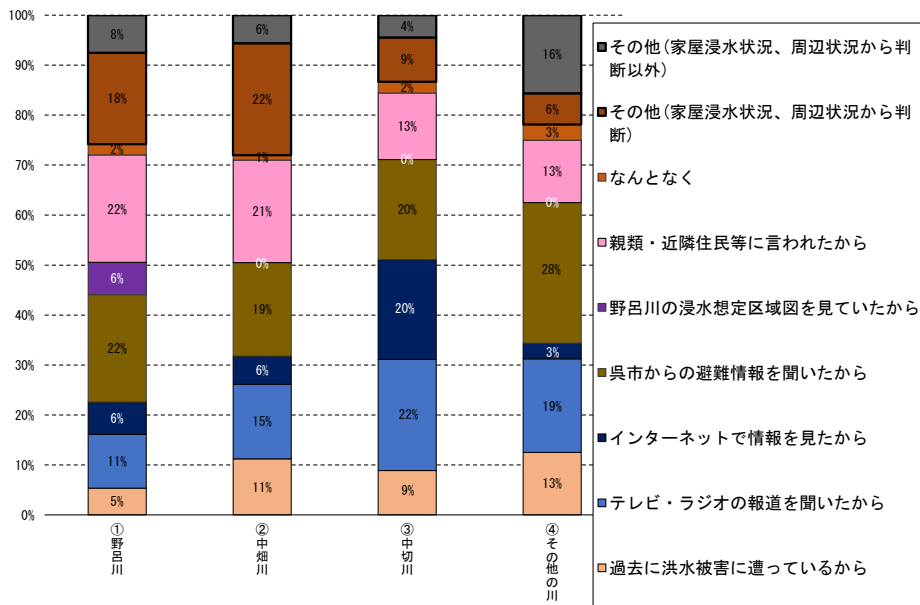
避難した理由について、野呂川、中畑川の特性が類似しており、中切川の特性が他 2 河川と異なっている。特に野呂川、中畑川は「その他」の割合が最も多く、分析が必要である。



【「その他」について】

野呂川、中畑川の特性として、「その他」という回答が最も多いため、具体的な記述事項を整理した結果、その他（家屋浸水状況、周辺状況から判断）と記述された方が約 70%～80%を占めていることが明らかとなった。

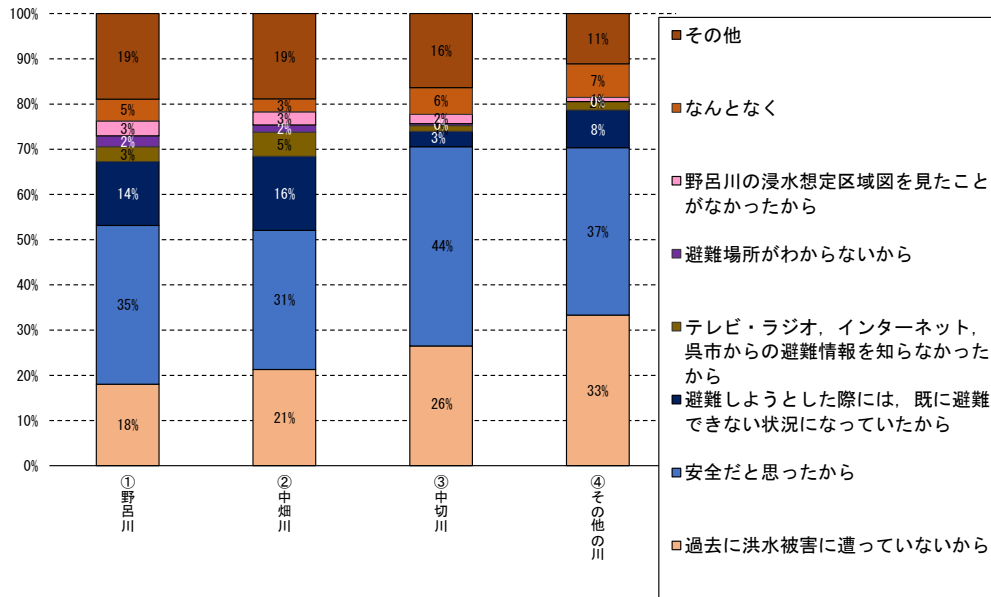
よって、その他を 2 つに分類し、野呂川、中畑川は、平成 30 年 7 月豪雨時に住民の方々が自らの目で状況の確認を行い、避難行動をとった方が多いと考えられる。



※その他(家屋浸水状況、周辺状況から判断)は、その他の意見の内、家屋の浸水を受けたもの、河川の水位、雨の状況について、自らの目で判断した意見を述べているものを抽出し、集計した。

質問 1 3. 質問 1 1 で「②いいえ」(避難しなかった)理由をお聞かせください

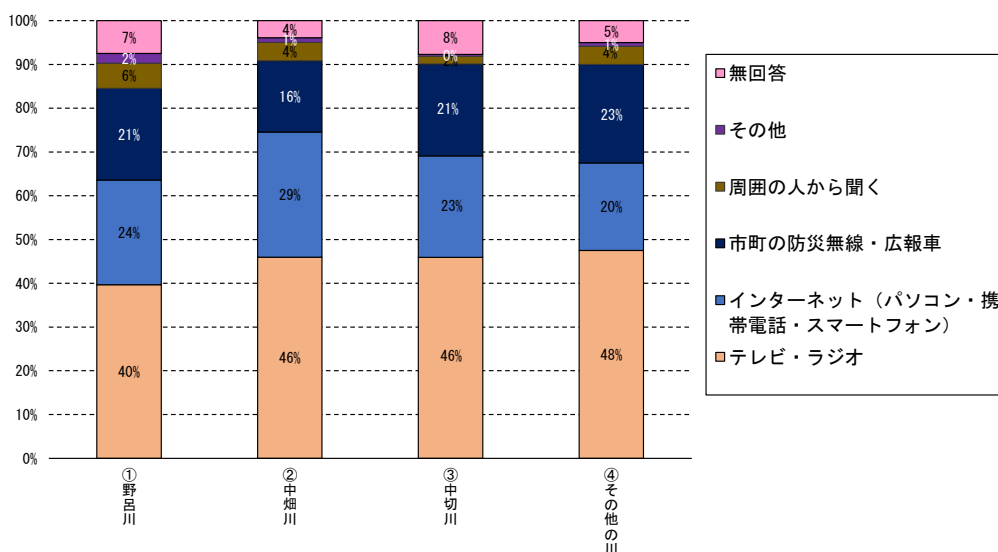
避難しなかった理由について、避難した理由と同様に、野呂川、中畑川の特性と中切川の特性が異なっている。特に、「避難しようとした際には避難できない状況」という意見が野呂川、中畑川で多くっており、中切川においては、少ない割合となっている。



質問 1 4. あなたが防災情報の収集を行う際に、最も利用するものは何ですか

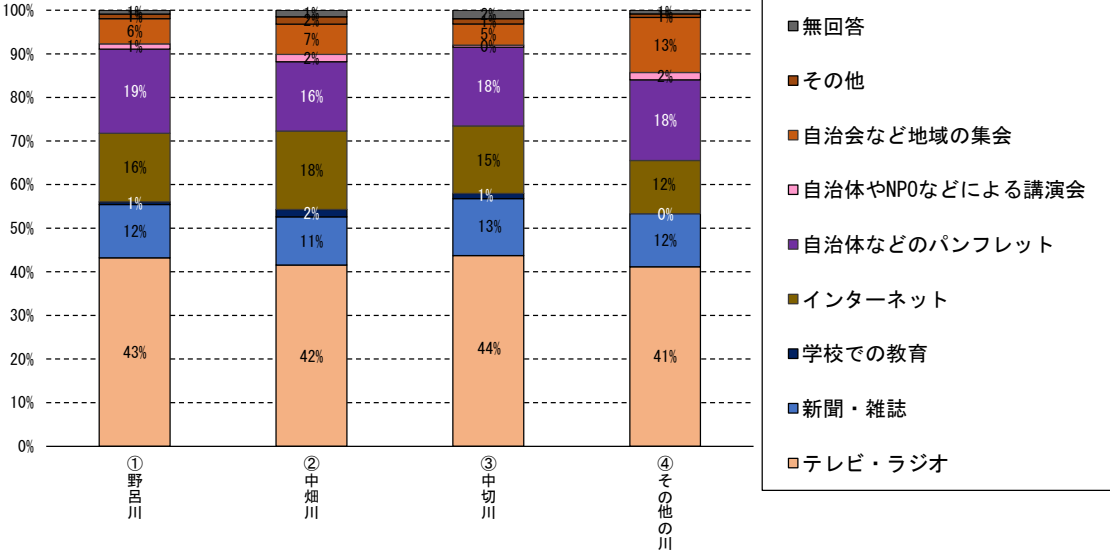
防災情報の収集方法は、河川毎に大きな特性はないが、中畑川の「テレビ・ラジオ」、「インターネット」の割合が高くなっている。

これも、年齢層と比例していると考えられる。



質問 15. 防災に関する知識を、あなたはどのように入手していますか

防災情報の知識の入手方法も、河川毎に大きな特性はないが、中畑川の「インターネット」の割合が高くなっている。





## 5. アンケート調査結果による河川整備計画への反映

アンケート結果による河川整備計画への反映としては、単純集計結果、自由意見集約結果、クロス集計結果(河川毎)より、単純・クロス集計結果の分析結果が、自由意見の集約結果と類似していると考えられる。つまり、自由意見を河川整備計画へ反映することにより、単純集計・クロス集計の分析結果を反映可能と考えられる。

以上より、アンケート調査結果による河川整備計画への反映に関しては、以下に示す項目について、河川整備計画への反映を行った。(本文の修正)

また、各項目に対する回答を次頁に添付するものとした。

### 河川整備計画への反映

事前放流に関する意見	河川整備計画への反映(追記事項)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大雨注意報は天気予報により早めにわかるので、人命第一で事前放流を担当者で判断できる仕組みを作ってもらいたい。</li> <li>・大雨、台風などの時は早めに対応してほしい。</li> </ul>	<p>野呂川ダムによる洪水調節機能強化の取組について、以下のとおり、本文に追記しました。</p> <p><b>【本文追記事項】</b></p> <p>●P15</p> <p><b>【2.2 洪水、高潮による災害の発生の防止又は軽減に関する事項】</b></p> <p>さらに、地球温暖化に伴う気候変動等の影響により、極めて大規模な災害が発生する懸念が高まっていることも踏まえ、施設では守り切れない洪水等は必ず発生するとの考えに立ち、想定される規模を超える洪水や高潮、津波が発生した場合においても、その被害を最小限に抑えるため、<u>野呂川ダムの事前放流等による洪水調節機能の強化</u>や、関係機関や沿川住民と連携し、高齢者などの要配慮者にも配慮した情報伝達方法、警戒避難体制等の整備を図るとともに、ハザードマップを作成する自治体の支援等、総合的な被害軽減対策を進めます。</p>

自由意見に対する回答【1/3】

大分類	中分類	小分類	人数	代表的な意見	本文への反映
治水	全般	安全安心な川づくり	48	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の災害で町は大きな損失、打撃を受けている。安全安心な川づくりをしてもらわないと、町の将来像は描けない。</li> <li>・今後、護岸が決壊しないよう、安心して過ごせるまちにしてほしい。</li> <li>・今後の気象変動も考慮した整備計画をお願いしたい。</li> <li>・従前の被災した場所のみ原形復旧を行う災害復旧工事ばかりではなく、費用対効果を検討しつつ抜本的な防災計画に基づいた治水対策改良工事も被災後並行して施工出来る様なシステムづくりが急務と考える。</li> </ul>	<p>「災害の発生の防止又は軽減に関しては、既往最大規模となった平成30年7月豪雨相当の流量について、河川からの越水・溢水による家屋浸水被害が生じないよう、野呂川ダムの有効活用や河川改修を行います。(後略)」</p> <p>【本文記載内容】 ●P15 【2.2 洪水、高潮による災害の発生の防止又は軽減に関する事項】</p>
		整備方法	28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西日本豪雨災害のような災害を防ぐには、広島県の太田川のような放水路を作るのが一番だと思うが、川の支流を作るか、大規模な遊水池を作るのが良いと思う。</li> <li>・河川改修をコンクリートブロックではなく、石を使ってほしい。</li> <li>・中畑川の川幅拡張や堤防強化をお願いしたいが、一番重要なのは旧国道の橋の橋脚をお願いしたい(橋脚のない橋にして欲しい)。</li> <li>・内海大橋より上流の地域の野呂川では一番重要な場所だと思う。しっかりと川を掘りさげ両岸の補強を望む。</li> <li>・野呂川、中切川などの整備は着々と進んでいるに、浸水被害があり、被災者に多大な精神的苦痛をもたらした中畑川は、果たして行政は被災者のために具体的な目標を設定し、優先順位を決めて復旧工事に従事しているのだろうか。</li> <li>・中畑川に関して、皆でこうやれば良いと思う方法を住民と県で話し合っって良い方法で早く進めて解決して欲しい。</li> </ul>	<p>ご意見を踏まえ、野呂川、中畑川の河川改修において、今後の調査、検討に活かして参ります。なお、工事の際には、地元説明会等を開催する予定ですので、よろしくお願ひいたします。</p>
		流域治水	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流木による被害が大きいと思うので山の手入れが必要。田んぼの宅地化による治水減少。ダムだけに頼らず護岸工事だけに頼らず、総合的に減災すべき。</li> </ul>	<p>「広島県、呉市が連携し、必要に応じて総合的な治水対策を実施し、内水被害や外水被害の軽減を図ります。」 「施設の能力には限界があり施設では守りきれない大洪水は必ず発生するとの考えに立ち、社会全体で洪水に備える「水防災意識社会再構築ビジョン」を踏まえ、(中略)関係機関が一体となって、減災に向けた取組方針を定めています。」</p> <p>【本文記載内容】 ●P24 【4.3.1 治水に関する事項 / 一つ目の○】 ●P25 【4.3.3 水防災意識社会再構築ビジョンを踏まえた取組】</p>
	ダム	事前放流	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大雨注意報は天気予報により早めにわかるので、人命第一で事前放流を担当者で判断できる仕組みを作ってもらいたい。</li> <li>・大雨、台風のなどの時は早めに対応してほしい。</li> </ul>	<p>野呂川ダムによる洪水調節機能強化の取組について、以下のとおり、本文に追記しました。</p> <p>【本文追記事項】 ●P15 【2.2 洪水、高潮による災害の発生の防止又は軽減に関する事項】</p> <p>さらに、地球温暖化に伴う気候変動等の影響により、極めて大規模な災害が発生する懸念が高まっていることも踏まえ、施設では守り切れない洪水等は必ず発生するとの考えに立ち、想定される規模を超える洪水や高潮、津波が発生した場合においても、その被害を最小限に抑えるため、野呂川ダムの事前放流等による洪水調節機能の強化や、関係機関や沿川住民と連携し、高齢者などの要配慮者にも配慮した情報伝達方法、警戒避難体制等の整備を図るとともに、ハザードマップを作成する自治体の支援等、総合的な被害軽減対策を進めます。</p>
		操作方法	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に注意して放水してほしい。</li> <li>・平成30年の7月豪雨でダムが突然放流する場合には地域住民に有線放送で事前に連絡をしてもらいたい。</li> </ul>	<p>「平成30年7月豪雨の土砂・流木の流入が生じた場合でも、野呂川ダムの洪水調節機能を最大限活用することができるよう、野呂川ダム下流(野呂川)の流下能力向上のための河川改修を実施した後、ゲート開度を見直すなど、野呂川ダムの有効活用を図ります。」</p> <p>「災害による被害の軽減を図るため、広島県河川防災情報システムにより、県内一円の雨量・水位やダム諸量などのデータをリアルタイムで情報提供するとともに、水防警報など必要な対策・支援を迅速に行います。(後略)」</p> <p>【本文記載内容】 ●P21 【3.1.2 (2)土砂・流木対策 ①野呂川ダム】 ●P24 【4.2 河川情報の提供 / 三つ目の○】</p>
		土砂・流木対策	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流木に対する対策を強化しないと水害は再発する可能性は大いに有ると考える。橋の支柱は全てない橋脚にすべき(安浦の川幅は内海大橋以外は全て20m以内と考える)</li> <li>・水害でいつも思うが、なぜあんなに流木が多いのか。あの流木も減らすことで被害が少なくなるのではと思う。流木対策を少し考えてもらいたい。</li> <li>・河川に流れ込む大木や土砂を最低限にすれば平成30年7月豪雨のような被害は抑えられたと思う。</li> </ul>	<p>「平成30年7月豪雨では、土砂・流木流出が発生したことを踏まえ、砂防事業等の関連事業に十分考慮しつつ、河川に流出した土砂・流木に対する対応を行います。」</p> <p>【本文記載内容】 ●P15 【2.2 洪水、高潮による災害の発生の防止又は軽減に関する事項】 ●P21 【3.1.2 河川工事の目的、種類及び河川管理施設の機能の概要】</p>
	河道	高潮対策	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野呂川河口付近が大潮の満潮時に道路から1m下程度まで水位が上がりますが、大雨が重なると付近の民家が被害にあうことは無いのか。</li> </ul>	<p>「災害の発生の防止又は軽減に関しては、既往最大規模となった平成30年7月豪雨相当の流量について、河川からの越水・溢水による家屋浸水被害が生じないよう、野呂川ダムの有効活用や河川改修を行います。(中略)想定される規模を超える洪水や高潮、津波が発生した場合においても、その被害を最小限に抑えるため、(中略)総合的な被害軽減対策を進めます。」</p> <p>【本文記載内容】 ●P15 【2.2 洪水、高潮による災害の発生の防止又は軽減に関する事項】</p>
		情報提供	17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報知るための防災無線が聞けるようにしてほしい。</li> <li>・河川カメラを増やしてほしい。</li> <li>・野呂川だけでなく、他の河川も水位をリアルタイムでインターネットで知れるようにしてほしい。</li> <li>・概ね何ミリ／時の降雨で氾濫(危険)するのかが情報開示をして欲しい。</li> </ul>	<p>「災害による被害の軽減を図るため、広島県河川防災情報システムにより、県内一円の雨量・水位やダム諸量などのデータをリアルタイムで情報提供するとともに、水防警報など必要な対策・支援を迅速に行います。(後略)」 「想定される規模を超える洪水や高潮、津波への対応として、最新のデジタル技術なども活用し、関係機関や地域住民への情報伝達、警戒避難体制等の強化に努めます。」</p> <p>【本文記載内容】 ●P24 【4.2 河川情報の提供】</p>
	ソフト対策	避難行動	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に災害時の避難場所の具体的な説明をして欲しかった。避難指定の小学校や支所等は水に浸水していてその場所に行けず、次の行動の指示が全くなかった。</li> <li>・高齢でも歩いて行ける近場の施設があればよい。</li> </ul>	<p>「(前略)「広島県管理河川大規模氾濫時の減災対策協議会(西部建設事務所管内【東ブロック】)」において、「洪水による『災害死ゼロ』の実現」を目指し、関係機関が一体となって、減災に向けた取組方針を定めています。今後は、引き続き継続的なフォローアップを行い、必要に応じて取組方針を見直します。」</p> <p>【本文記載内容】 ●P25 【4.3.3 水防災意識社会再構築ビジョンを踏まえた取組】</p>
防災対策		3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民それぞれの防災意識を高め、いつ起きても対処できるよう訓練が必要と思う。</li> <li>・雨が予想される時は、川の流れの見張りを行い、特に橋桁に引っかかるような物は早めに撤去し、円滑な水の流れを保つ努力が必要である。</li> </ul>	<p>「(前略)「広島県管理河川大規模氾濫時の減災対策協議会(西部建設事務所管内【東ブロック】)」において、「洪水による『災害死ゼロ』の実現」を目指し、関係機関が一体となって、減災に向けた取組方針を定めています。今後は、引き続き継続的なフォローアップを行い、必要に応じて取組方針を見直します。」</p> <p>【本文記載内容】 ●P25 【4.3.3 水防災意識社会再構築ビジョンを踏まえた取組】</p>	

自由意見に対する回答【2 / 3】

大分類	中分類	小分類	人数	代表的な意見	本文への反映
治水	ソフト対策	住民参画	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての危険箇所に行行政せでは無く地域の人達が自分達の住んでいる場所をしっかりと点検する事も大切だと思う。</li> <li>各自治体毎の防災担当(委員)を決め、早目の市への詳細情報の連絡、被害者への早期支援が必要。</li> </ul>	ご意見を踏まえ、住民の方が参画する形態での今後の維持管理や点検のあり方について、県・市・地域住民で連携したいと考えておりますので、ご協力をお願いします。
		ハザードマップ	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在配布されているハザードマップは実地形状に適合していない箇所がある。現地をよく調査の上制作してほしい。</li> </ul>	現在、現時点の地形状況を踏まえた洪水浸水想定区域図の作成に取り組んでいます。ハザードマップについても、呉市と連携し、住民の方の避難行動につながるよう努めます。  【本文記載内容】 ●P25【4.3.3 水防災意識社会再構築ビジョンを踏まえた取組】
利水	ダム	農業用水確保	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>濁水などが起きないよう、農業用水として利用できることを望んでいる。</li> </ul>	「水利使用の安定取水が可能となるよう、野呂川ダムを活用して現況流況の確保に努めます。また、濁水時には関連情報を収集し、状況把握や河川流量等に関する情報提供や、野呂川ダムを用いた補給、流量調整を行うなど円滑な濁水調整に努めます。」
		河川環境の保全	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>野呂川の下流の水が無くなりそうなときは、ダムの放水をしてほしい。とくに夏場。アユが死なないように。</li> </ul>	【本文記載内容】 ●P15【2.3 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項】
河川環境	全般	整備と保全	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>大事な河川である。皆で守りたい美しい川である。</li> <li>時期になればホタルが乱舞し思いの多い野呂川だった。以前のような自然が多く残り季節毎に楽しみ、人々が寄り添う野呂川になれば良いと思う。</li> </ul>	「河川環境の整備と保全に関しては、治水・利水との調和を図りながら、貴重な動植物の生息・生育場となっている水環境の保全、(中略)関係機関や地元住民と連携しながら、河川の水質、動植物の生息・生育・繁殖環境の保全・改善に努めます。」
	動植物	保全対策	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全性ばかりを追求すると魚や虫などが生息できなくなって、自然がなくなってしまうのが心配である。</li> <li>虫が舞い、自然豊かな環境を守って頂きたい。川に虫が早く戻りますように。</li> </ul>	【本文記載内容】 ●P15【2.4 河川環境の整備と保全に関する事項】
	河川利用	親水対策	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>川の水も以前より格段に綺麗になったのに水辺に下りる段々が無いように感じます。もっと親水が可能な様になる事を望む。</li> <li>川と日常的に親しめる場を何ヶ所か整備し、公園と同じ様に手軽に川と親しめる場所にするのも大切だと思う。</li> </ul>	
	水質	保全対策	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>昔はたくさんのお酒造会社があったほど水が良い。その歴史を活かしてほしい。</li> </ul>	
維持管理	治水	全般	22	<ul style="list-style-type: none"> <li>最近、災害が多発して復旧工事が多く予算どりが大変だと思いますが起きてからは工事は必ず行うが、起きる前から維持管理を重視して計画的に管理してほしい。</li> <li>維持管理を住民・行政共同で取り組む仕組みを作って、参加する機会があれば参加したい。</li> <li>定期的にパトロールを行い、維持管理を徹底、及び的確な改修工事を実施して欲しい。</li> </ul>	「河川の維持管理は、地域の特性を踏まえつつ、洪水による被害の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全がなされるよう総合的に進めます。(後略)」  【本文記載内容】 ●P22～P23【3.2 河川の維持の目的、種類及び施行の場所】
		河床堆積・樹木	50	<ul style="list-style-type: none"> <li>川が、石とか竹とか色々な木々が、川の流れをなくしているのが、今回の災害を起こした要因ではないのかと自分自身では思う。川の流れを作る障害物を少しでも取り除くことが第一だと思う。</li> <li>河川敷の整備はされたとは思いますが、以前に比べ川底の土砂が多いような気がする。川の深さが浅くなったような気がする。今年の大雨時も不安になるほどに水位が上がっていた。子供の頃に比べ川が浅くなっている。</li> <li>川の砂を取ってもらって2年が過ぎて、また砂で川底が上がっています。針金の絡まったもの、折れた木や小枝がある。その状況を把握して欲しいと思う。</li> <li>ピンポイントで降るゲリラ豪雨が来たとはいえ、川幅が狭いので川底に堆積物が増え橋げた等に空間が無くなり、河川の決壊につながったと思われる。</li> </ul>	「(前略)河川巡視や出水期前・出水後など適切な時期に点検を実施し、状況把握を行い、その点検結果を蓄積するとともに、必要な対策を実施することで、「河川管理施設」の機能の維持に努めます。(後略)」  堆積した土砂等が、治水上支障となる場合は、環境面も配慮しつつ掘削等必要な対策を講じます。  【本文記載内容】 ●P22 【3.2.1 河川の維持の目的】 【3.2.2 河川の維持の種類及び施行の場所 / (1)河道の維持】
		治山・砂防	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>砂防ダムは、作ったまま砂も取らずでは意味がないし川も砂や土が溜まったままの所を順を決め定期的にとってほしい。</li> <li>豪雨が来た時の砂防ダムの点検について、その都度点検しているのか不安である。土砂の取除きをしていないと思われる。</li> </ul>	貴重なご意見は、関係部局と共有して参ります。  【本文記載内容】 ●P26【4.3.4 その他 / 一つ目の〇】
		ダム	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>野呂川ダムの管理をしっかり願いたい。</li> <li>県が野呂川ダムの適切な管理を実施しない限り野呂川流域の災害への備えは十分ではないと思う。</li> </ul>	ダム施設を適切に運用できるよう、ダム点検整備基準・同解説(広島県)に基づいたダムの維持管理を対策を行います。「貯水池について巡視及び堆砂測量等を実施し、貯水池の状況を把握するとともに、ダム本体について変形量及び漏水等の測量を行います。また、観測設備、警報設備及び放流設備についても定期的な点検を行い、その機能の維持管理に努めます。」  【本文記載内容】 ●P22【3.2.2 河川の維持の種類及び施行の場所 / (3)ダムの維持】
	護岸	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>護岸の点検を怠らず悪いところがあれば改良して維持管理をしてもらいたい。</li> <li>中畑川下流の決壊した付近は、砂がぬけて空洞になっていないか調べる必要があると思う。</li> </ul>	「護岸、堤防等の河川管理施設については、法崩れ、亀裂等の異常について早期発見に努めるとともに、河川管理上の支障となる場合は適切な処理を行います。」  【本文記載内容】 ●P22【3.2.2 河川の維持の種類及び施行の場所 / (2)護岸、堤防等の維持】	
	利水	取水堰	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>せきや頭首工の整備点検のために河川内に入れるようスロープ(コンクリート構造)や階段の設置をお願いしたい。</li> </ul>	貴重なご意見は、関係機関と共有して参ります。また、「良好な河川環境を維持するため、許可工作物の新設や改築にあたっては、施設管理者に対して治水上の影響等を考慮の上、環境の保全にも配慮するよう指導します。」  【本文記載内容】 ●P25【4.3.2 利水・環境に関する事項 / 三つ目の〇】
	河川環境	ゴミ対策	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>例えば、1年に1度「川の日」として市をあげて市民行政と一緒に(強制はしない)近くの川を清掃する等して川の保清、管理をしていくことも大切だと思う。</li> </ul>	「親しめる川づくりを進めるため、河川に関する広報活動等により地域住民に河川への関心を高めるよう努めます。また、草刈りや清掃活動などの河川愛護活動の支援も行います。」  ●P26【3.2.2 河川の維持の種類及び施行の場所 (4)植生の維持、(6)ゴミ等対策】
河川利用		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>中畑川下流域に設定される「シラウオ漁施設」に利用されたとされる「クイ」は、漁季以外は撤去すべきと思う。</li> </ul>	貴重なご意見は、関係機関等と共有して参ります。また、「良好な河川環境を維持するため、許可工作物の新設や改築にあたっては、施設管理者に対して治水上の影響等を考慮の上、環境の保全にも配慮するよう指導します。」  【本文記載内容】 ●P25【4.3.2 利水・環境に関する事項 / 三つ目の〇】	

自由意見に対する回答【3 / 3】

大分類	中分類	小分類	人数	代表的な意見	本文への反映	
維持管理	その他	河川周辺	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川周辺は草・木が沢山ある。つまり現在はあまり管理されていない。</li> <li>子供の通学路にもなっているので草刈をしてほしい。川に落ちそうで怖い。</li> </ul>	<p>「良好な河川環境を保全するため、必要箇所の草刈や樹木の管理を地域住民と協力しながら行います。」 また、関係機関と共有して参ります。</p> <p>【本文記載内容】 ●P23【3.2.2 河川の維持の種類及び施行の場所/ (4)植生の維持】</p>	
その他	全般	災害復旧	46	<ul style="list-style-type: none"> <li>H30豪雨の復旧工事は進んでいるようだが、全く手付かずの所も多く、今後の災害が不安ですので早急に工事をして欲しい。</li> <li>河川の復旧は進んでいるが、土砂崩れの復旧は進んでない様に見える。</li> <li>もう少し工事が早く終われば良いと思う。工事に手間取っている感じがする。</li> <li>川は氾濫、決壊するものだと思うが、水害が起きた後の対応をしっかりと計画しておいて欲しい。</li> <li>災害が起きたら早期の復旧をして欲しい。</li> <li>流木等、田畑に入り込み護岸が多く崩れて災害復旧が遅れていると思われる。</li> </ul>	<p>現在も、早急な復旧がなされるよう、取組を実施していますが、皆様にはご迷惑をおかけしております。貴重なご意見は、関係機関と共有して参ります。引き続き、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。</p>	
		災害要因	16	<ul style="list-style-type: none"> <li>H30年7月7日7時なげ急に増水させたのか？徹底的に原因と対策を明確に住民説明と報告書を全戸配布されたい。</li> <li>平成30年7月豪雨での浸水被害は「中畑川の決壊、氾濫が原因」となっているが、野呂川の放流が中畑川の決壊氾濫に本当に関係ないのか、その真実が知りたい。</li> </ul>	<p>平成30年7月豪雨における野呂川の氾濫要因等については、「平成30年7月豪雨災害を踏まえた今後の水害・土砂災害対策のあり方検討会」において、整理しています。 以下の広島県HPより資料をご確認頂きたいと思います。 ■<a href="https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/99/arikatakento.html">https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/99/arikatakento.html</a></p>	
		まちづくり	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>安浦は野呂山と三津口湾と野呂川の町。平成30年7月豪雨を経験し、それまであまり意識したことのない「川」の存在に気が付かされた。単に「復旧」だけに止まらず、安浦を「復興」させる。まちづくりを川から考える契機になれば良いと願っている。</li> <li>決壊した堤防の下流側が未だ補強されていない様に感じられ、不安はつねにあります。町から出る方も多く、スーパーもそのまま、安心した町を作る印象が市からも感じられない。</li> </ul>	<p>「適正な河川管理を行うためには、流域の成り立ちやその役割・特性を考慮し、治水、河川利用及び河川環境などの情報について、地域や関係機関と連携し流域一体で取り組むことが重要であると考えます。」</p> <p>【本文記載内容】 ●P24【4 河川情報の提供、地域や関係機関との連携等に関する事項】</p>	
		行政への意見	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治活動を通じて浸水被害世帯の方とよく話をする。その中で多い意見は私たちの本当の声は行政には届かない。どう届けてよいかその方法が分からない。</li> <li>市民の気持ちで対応・応対してほしい。</li> <li>地元の人の話をしっかり聞いて事業を進めて下さい。ダムの人も現場でしかわからない事が多くあると思う。</li> </ul>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。 工事に際しては、住民の皆様のご意見を反映できるよう、地元説明会を開催します。 今後も、ご協力頂きますようお願いいたします。</p>	
		地元説明会	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>説明会も土曜日では仕事で話を聞けない。日曜日行ってもほしい。(次回があれば)</li> <li>色々な方向から周囲を見つめてこれからのあるべき姿を説明してほしい。</li> <li>次回の説明会の案内もお願いしたい。</li> </ul>	<p>今後、開催する地元説明会に関しては、早めの情報の提供に努めます。</p>	
		環境・防災教育	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>この度の事を風化させずに日頃より皆で意識を高めていくことが大切と思う。</li> <li>今回の豪雨被害についても、子供たちに教えたいと思う。そして、子々孫々このことを言い伝えて行くことにしている。</li> </ul>	<p>「河川管理施設の能力には限界があり施設では守りきれない大洪水は必ず発生するとの考えに立ち、ハード対策に加え、ソフト対策の推進にあたっては、関係機関や地域住民等と、より一層の連携強化に努めます。」</p> <p>【本文記載内容】 ●P24【4 河川情報の提供、地域や関係機関との連携等に関する事項】</p>	
		アンケート	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>本アンケート結果について有効的な活用を切に希望する。何事においても「油断大敵」「先手必勝」であると考えている。関係者のご尽力をお願いしたい。</li> </ul>	<p>河川整備計画に関する内容、河川改修、ならびに維持管理に反映していきます。</p>	
		治水	小河川	17	<ul style="list-style-type: none"> <li>赤向坂川へ流れ込む支流もきちんとした対策工事をして、川(赤向坂川)へ流れ込む様にして欲しい。</li> <li>奥条川の維持管理をお願いしたい。</li> <li>本流を守るためには支流にも目を向け、落差工・帯工など地形に合った工法により河川を守っていただきたい。</li> <li>支流の市管理の河川より越水し、浸水するため、県と市の連携が必要。</li> <li>中切川と支川の合流箇所、道路の浸水が発生している。安登地区ガソリンスタンド前</li> <li>見行川には大きな石が流れてそのままの状態である。</li> <li>野呂川水系光木川の護岸の修復工事を願う。</li> </ul>	<p>貴重なご意見は、関係機関と共有します。</p>
			ため池	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>大雨時、上方の「ため池」が心配である。</li> <li>安浦にはため池が沢山有る。河川やため池などの管轄はそれぞれ県や市と別れてるかもしれないが、今後同じような災害が起きないように市と合同で対策を早急をお願いしたいと思う。</li> </ul>	
			内水(水路・ポンプ場)	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>安浦駅から近くの溝という川が分からないが、どぶになっていて、水があふれる事がないか心配、海に流れる迄に消防署横公園当たり心配である。</li> <li>ダムの放流量と海岸にある放水ゲートの排水ポンプの連携を密に取ってもらい、これからの自然に対応してもらいたい。</li> <li>年に1,2回大潮の満潮時に、中畑川の潮位が上がり道路が冠水する事があった。</li> </ul>	<p>「広島県、呉市が連携し、必要に応じて総合的な治水対策を実施し、内水被害や外水被害の軽減を図ります。」</p> <p>【本文記載内容】 ●P24【4.3.1 治水に関する事項 / 一つ目の〇】</p>
橋梁の新設	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>安浦大橋歩道橋新設がある。護岸が弱いのに、土地も埋め立ての弱い場所に歩道橋とは、不安でならない。</li> </ul>	<p>関係機関と情報を共有します。</p>		
利水	用水路	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業用の水路を確保するための帯止め工をしていただきたい。</li> </ul>	<p>貴重なご意見は、関係機関へに伝えます。</p>		
合計			409			